

1. 意見

別紙に記載しました。

私たち、NPO法人フィールドサポートは
道北地区に居住する住民を対象にした環境
へのふれあいや まちづくりの推進への啓蒙を
行う事により 地域に根ざした社会貢献を
目的として 昨年7月道知事の認証を受け
ました。

(活動内容を示す書類も添付しましたので
ご覧下さい。) また「士別市内の景観現状を
考える」と題しまして 報告書を作成しております。
岩尾内ダム付近について一部取り上げております。

見 聞

1). はじめに.

戦前、戦後、いく度となくくり返した
天塩川水系の河川災害、洪水は、戦後
が「国のスピード」と国の施策により社会
資本整備の充実化が成りて来ましたが、
河川整備計画(原案)に記述されて

いる現状と課題の通り天塩川流域での
動植物の生態・生育状況・河川景観は記載の
通りと考へられます。

整備計画全体に渡っての意見は専門的
知識に乏しいため、記述する事は出来ませんが
「河川空間の利用」に際して、幼少の頃より
天塩川と関わりを来た観点から、記述し
て考へます。

2) 天塩川上流域における地域住民のふれあい。

人口の減少・地域住民の高齢化・たばにり
天塩川でのふれ合い・かかわり合いが
消極的に感じられるのが寂しい所があります。
レジャー そのものが多様化した現在、

水辺での親子や、子供同士の「遊び」は、
この地域では、ほとんど見受けられな
くなってきているのが現状です。

将来的に散見する「釣り人」ぐらいしか
天塩川で見掛けられる事が無くなって

上土別町の市街地から直結する菊水橋付近
では、水際まで足を運ぶことすら困難な状況
であり、水とふれあうことも出来ません。

ヤナギ、下草類が繁茂し、築堤のみは、
維持管理をしておりましたが、水と親しむ
事は出来ません。

上土別に限らず、土別市つくも公園付近の
高水敷に設置していた、サッカースタジアムから上流で
地域住民の水とふれ合う場が一切なく、

KP177(セキ橋付近)から KP207(菅内弘土)の
間は、一部朝日町運動広場が、天塩川と隣接して
いるものの、途中の中土別、上土別、兼内など、水とふれあ
集落に居住する住民が、水とふれあう状況の
環境に整備を怠っている。

あつたにも大きな天塩川を、ポイント、ポイントで
表現すれば、施設等が充実しているように
感じられるが、その地域に住む者としては、

原野の中の河川を表現するのが、ふさわしいのでは
ないだろうか。

考え方を変えれば、すばらしい自然が残っている

と言う事なので(すうか)!

一部 釣り人が足で踏み入れる「河川空間
の利用」も、別な観点や視点から考へて
行かなければならぬ時期にきているのでは
ないだろうか。

例として 北見市 無加川 における真冬の築堤



この時期にも
ハーフパイプを
楽しんでいる。

2007. 1. 27.

地理的・人口・気候条件もあるから、築堤上で
散策。冬期間であっても堤内地において
ハーフパイプを楽しむ姿や、歩くスキーなど



2007.1.27

親子でのスキー遊び ソリ遊びなど
市民活動の憩いの場として定着している様子が
うかがえる。

築堤上では除雪機による除雪圧雪が施され
ており市民への配慮が感じられる。

3) 二ヶからの川辺とのつながりあい

洪水のメカニズムや流川の技術的
考察に際し 私たち地域住民から見

やナギや広葉樹林および下草の植生が

流水の正常な機能の維持として、
大なる役割りをしていのかどうか、伺い知る
ための見識を持ち合せていませんが、

水辺景観の保全・形成においては、
ある程度、人の手もかけながら、周辺農地や
生物の生息（上場ではオウルなど）との調和が
一つの方向性として見えてくるのではな
いでしょうか。特に山間部で農地が隣接
しているのを見れば、ともかく、先程示した
十九ヶ橋から岩屋内ダムまでの30km区間は
ほぼ「全域」農地や村落のかかわりを
持っており、天塩川全流域256kmから
見れば、ごく一部なのかも知れませんが、
この上流域から河口の下流域までを
その地域に住む者としては、おそらく子供の
頃から、何らかの思い入れや親しみ
を持って天塩川のかかわり合いを体験し
ているものと思われまふ。

それらの事から考え合わせると、水との
かわり合いが、人間として「癒しの場」
が求められ、必要とされているものと
考えられます。

時代の移り変わりや、社会情勢の変化、
環境や温暖化、地域住民の年齢構成や
天塩川に対する考え方が変わりつつあるように
見受けられ、それら全体的考察の中から
学識経験者や専門的知識から、河川整備の
方向性が確立されてくるものと考えられますが、

河川整備計画の策定に当たっては、この原案
にも多くの専門知識を持た方々が長時間に
渡り多大なるご審議ご苦勞をなされたものと、
思われます。

天塩川が「癒しの場」として私たちの
地域に末永く、そして心地良、次世代に
何けた河川整備計画になる事を願って
おります。